

地域の建設会社を目配りを

○…「三重県内の自治体で、地元企業が参加しやすい発注方式の採用がさらに進めば」と期待するのは、空調や給排水などの設備工事を手掛ける藤原工業社長の藤原和彦さん。地域の建設会社は工事を行うだけでなく、災害発生時には復旧作業に従事する重要な役割を担っている。自治体に対し「もっと地域の建設会社を目配りしてほしい」と訴える。

○…今後は、公共工事の受注拡大を進める。売上高に占める公共事業の比率を現在の3割から7割に引き上げる考えだ。自治体の発注工事の受注実績を重ねるとともに、要望活動も展開する。地元企業が参加しやすい発注方式の導入に加え、公共工事に従事する技術者の処遇改善も求める方針だ。「三重県の建設会社の健全な発展のために貢献したい」。今後、業界の繁栄のためにも活動を行う考えだ。



ロビー

(四日市)